

夏季學園

日本大學幼稚園長 山田 仲子

序

夏季學園は、つとめて自由であることを欲します。夏季學園は、何時如何なる所に於ても、大人の世界といふ色調を弱めたいと欲します。本園兒の夏季保育と併せて一般幼兒をも收容し、倉橋先生、その他番町小學校長の御指導と御鞭撻とを得て、第二回の夏季學園を開催いたしました。

實施日課表

時組	幼稚園部	小學部	備考
午前七時三〇分	ラジオ体操	同	
八時〇〇分	健康診断	同	
八時三〇分	お仕事	學習輔導	
十時〇〇分	間食	運動	

十時三〇分	プール水遊び	プール水泳
十一時三〇分	歸宅準備	晝食
十二時〇〇分		食後お話し
午後一時〇〇分		休息午睡
二時〇〇分		自由遊び
三時〇〇分		プール水泳
三時三〇分		間食
		歸宅準備

目的

夏季に於ける幼兒の保育は、清新にして潑刺たる生活形態を必要とします。土を與へ、水を與へ、そして大氣に呼吸する自由を興へることによつて、身心の整調をもたらし

良習の助長を可能ならしめることが出来ます。

かうして學園は、本園兒の夏季保育を健かに進行せしめると同時に、更に一般の低學年兒童をも併せ收容し、より社會的にこれが要旨の徹底を期するものであります。

施設概要

一、場所 當園内

一、期日 八月一日より三週間

一、資格 本園兒及び一般の滿五歳より尋常三年までの兒童

一、定員 本園兒の他一般から四十名

一、費用 四圓

おやつその他一切の費用を含む。

〔設備〕

園舎、園庭、各種運動具、プール

プールは昨年第一回の學園に際し新設したものである。

〔位置〕 かぎの手の園舎に添ひ、南と東とにひらけ、

充分に日光をうけることが出来ます。

〔形状〕 廣さ十六坪、深さ七寸より二尺まで、底面傾

斜尋常四五年までの數種の泳法可能又幼兒にも危険ありません。

〔用水〕 地下三〇〇尺の絶對無菌認可飲料水をモーターにより供與し、又絶えず噴水により新陳代謝を計ります

〔收容兒童〕

幼稚部 二八名

本園兒 二二名

一般幼兒 六名

小學部 三五名

一學年 二〇名

二學年 五名

三學年 六名

四學年 四名

弟妹の都合により、小學部に四年生四名を入園せしめました。

〔學校別〕 杉並第五、杉並第一、杉並第七、桃園第三、

成溪、無藏野學園、麴町上六、小石川金富、千駄ヶ谷第三。

〔入園許可〕　トラホーム、皮膚病等の傳染病に重きを置き、身體検査の結果、右の六十三名を決定す。

〔保育關係者〕

園長　一　主事　一
保姆　三　囑託　三
補導　六　囑託醫　二
使丁　一

學園の一日

朝七時三〇分、ラヂオ體操が始まります。輕快なピアノの音律が流れ、號今が弾みます。そして子供達は躍ります。先生と子供と、そのすべてを包む朗かな雰圍氣、そのよさの中に學園の一日の生活が始まるのです。先づ健康診斷、こゝでは、その日の身體の故障、水浴の可否が檢べられ、それがすむと、幼稚部は豫定の保育へ、小學部は學習へ、夫々お部屋で本を開き、鉛筆が走り作業がとゞきます。午前十時、一しきり賑やかなさゞめきが起つて、プールのお仕度です。準備運動がすむと、大變です。プール目が

けて突進です。耳に栓をしましたが、頭や胸をしめしましたか、先生の聲が頃れそうです。

水こそは夏の子供にとつて、興味を中心生活であります。別けて都會の幼兒生活の中に、安全にして快適な水を採入れることは、夏季保育の最も核心をなすものでなければなりません。

合圖の點鐘、ワツト歡聲が舉ります。青空が碎けて、木影がゆれます。ひとしきり飛沫の中に亂舞がとゞきます。淺い所で腹這ひになる子供、浮輪のお舟でゆれてる子供、水繁吹をたてゝ泳ぐ子供。水が大きくゆれてコンクリートの歩廊が波で洗はれます。でも噴泉は溢れて、水は清淨です。そしてクロルカルキは殺菌劑です。水浴に不適當な子供の爲めには、砂場があり、木蔭があり、そこで自由な遊びです。

水浴後整理運動、體をタオルで拭きとる。冷えぬやうにと腹巻きの注意、こゝでも先生は忙しく立廻らなければなりません。

やがて晝食です。さすがはお腹が空いて、お辨當が待た

れます。晝食の賑やかさも亦快いものです。朗かな談笑は消化を助けます。早かつたり遅かつたり、お辨當の時間は町々ですが、間もなく先生のお話が始まります。お辨當のすむだ子供は何時とはなしに先生の周りを取りまいて、お話に聞きとれます。小さなお話は食休みには結好なものです。それから午睡、遊びが夫々の習慣従つて適當に與へられます。そして午後二時、又プールの時間です。

間食幼稚部千前十時、小學部は午後三時です。温い麥湯に、おやつはいろいろ取交せて與へられます。その日のおやつはきつと子供達の話題にのびります。一様に與へられるおやつはどんなに嬉しいことせう。

カルケツト、サンドビスケツト、アラレ、カルシウムゼンバイ、ココアパン、パンケーキチョコレート、水無飴。

幼稚部はおひるでおしまひ、おかへりのお仕度ですが、これはまだく研究の餘地があるやうに思はれます。午後三時三〇分、豫定の日課を終へて、小學部もかへります。かうして忙しく一日がすぎます。職員室では明日の豫定表が展げられます。

出缺狀況表

部 稚 幼			部 學 小			性別	在籍日々出席平均	日々缺席平均	出席歩合
合計	女	男	合計	女	男				
二八	一一	一七	三五	二一	一四	男	一三、三九	〇、六一	九五、六四
二六、一七	一〇、三九	一五、七八	三二、一七	一八、七八		女	二、二二	二、八三	八九、四三
						合計	二、八三	九、九二	九三、四五
						合計	一、八三	〇、六一	九四、四五
						合計	一、八三	〇、六一	九三、四五

體重平均増減表

第一回七月三十日
第二回八月二十日

部 稚 幼			部 學 小		
均平	重	總	均平	重	總
〇、〇八	一、九〇	三、二五	〇、〇一	一、四五	一、六〇
均平	重	總	均平	重	總
〇、三六	〇、二五	四、二五	〇、一六	一、四五	一、六〇
均平	重	總	均平	重	總
〇、〇八	一、九〇	三、二五	〇、〇一	一、四五	一、六〇
均平	重	總	均平	重	總
〇、三六	〇、二五	四、二五	〇、一六	一、四五	一、六〇

園 樂

太陽がキラキラ照つて蟬が無性に鳴いてゐます。プールの面に靜かにゆれて噴水に虹が鮮かです。

廣い原ば森近く

涼しい朝風露ふむで

我が學園、夏季學園

朗かに學園の歌を唱ひながら、學習の餘暇を綠蔭をたづねての散策も、時折の楽しみです。自然に恵まれ、自然に抱かれた學園は幸でなければなりません。近くの森に、お社に、しばしの憩がつよみます。

そして又朝の映畫會や午後の學藝會、こゝでは明るい笑ひが窓外に溢れ、森に木魂して蟬がふと鳴き止むほどです。明るく明るく、そこにのみ健やかな生活があります。

更に兒童慰安會は、數百に餘る御家庭の來賓を迎へ、學園の掉尾を飾る催しです。遊戯や歌が、廣い遊戯室の真中で、自由に伸び伸びと喧はれ、踊られます。そして又先生方の劇が、これは又如何に喝采を博したことでせう。

大人の世界といふ色調を、少しでも弱めるのが學園です。子供の生活を眞に理解することが、愛でなければなりません。愛は理解のみによつて可能です。

日誌の一頁

結びに代へて日誌の一頁をひもといひてみます。

× × ×

ひで子ちゃん、いつもプールに入つたことがあります。プールの時間には、お部屋の隅で、しよげり切つてゐたり、お庭の木の蔭で浮かない顔をしてゐます。だつて水が怖いといふのです。

それは昨日のことでした。やつぱりプールの時間です。ひで子ちゃんは水着を持つと洗面所へゆくのです。水着に着代へるのかと思ふと、さうではありません。水道の栓をひねるのです。水を出して、さも悪いことでもするやうにそつと水をかけるのです。そして濡れた水着をそのままお道具の中にしまふのです。そのいぢらしい様子の中に、はつきり頷けるものがありました。濡れない水着は泳いだ證

據にはなりませんもの。

合圖の鐘がなつて、今日も亦プールの時間です。

「ひで子ちゃん、今日水着をきませう」

浮かない顔でしたが、コクリと頷きます。

「水着をきたら、プールの側に立つてみませう」

ひで子ちゃんは氣のすままない足取りで歩きます。

「さあ、ほんとに水着を濡らしてごらんさい。みんなバチャ／＼泳いでるでせう。そうら、お水がはねるでせう。

あらあら、水着が濡れつちまつてよ。ほんとに濡れたでせう。さあ、プールに入つてみませう。ほら、浅いでせう」

ひで子ちゃんは浅い所に立つたまゝ、ぢつと水に見いつてゐます。

「ひで子ちゃんはいゝ子ね。少しづゝ歩いて、そろそろお膝までね。ゑらいわね。ちつとも怖くないでせう。こんどはお膝を曲げて沈みませう。少しづゝね。あゝら！ 沈んだ！ 沈んだ！」

ひで子ちゃんは遂々胸のところまで水に浸しました。でもその時のいちらじい顔！ ひで子ちゃんの顔が、さつと

歪んで、ほんの一寸ニコツとしたかと思ふと、大粒の涙がほろりと落ちました。

でもほんとうに濡れた水着を抱へて、ひで子ちゃんのお顔はどんなに明るかつたこととせう。

X X X

こゝに報告を得ました二幼稚園の外に、今夏は各地の多数幼稚園で「夏の幼稚園」が試みられました。園内に簡單なる設備をしてはじめたもの、林間に方けるもの、海岸に於けるもの、或ひは綠蔭を追つた移動式のもの等、いろ／＼の試みがあつたやうであります。それが、それ等の報告を得なかつたことを残念に思ひます。